



玉 橋 (神 橋)

鵜 戸

発行者兼編集者
鵜 戸 神 宮
社 務 所
印刷所
西 日 本 印 刷



ごあいさつ

宮司 佐 師 朝 規

暑中御見舞申し上げます
暑さ殊に酷しき折から
御自愛の程祈り上げます

鵜戸神社在荷中石段老杉年不知波叩奇極極壯観来客四時不絶 寿太郎
此の詩は小村寿太郎侯爵の御詠になったものである。侯は明治の外交官
であり世界的によく知られているポーツマス講和条約での功績、日英同盟
締結、韓国併合関税自主権の完全獲得など日本の歴史の中でも特に重要な
役割を果たされた。政治家の侯は安政二年日南市鉄肥の大手に生れ、武士と
しては下級で家族も多く兄弟も多く生活は苦しく平生は百姓仕事をし不
足を補われたと言う。典型的とも言うべき貧乏士族に生まれた侯は文久七
年七才で藩校振徳堂に入り、大変勉強家で特に記憶力が優れていたと、私
の幼少の時、祖母佐師シマ（昭和十一年死亡）より、よく侯の苦勞話、或
は出世話を聞かされたもので、私の生家潮嶽神社（日向三権現の一つ）に
も度々御参拝された由である。

侯には祖母小村熊子氏が与えた訓育として鵜戸さん参りがあった。特に
虚弱であった寿太郎侯を連れて背負ったり手を引いたりして機会ある事に
御参りされたと言う事である。

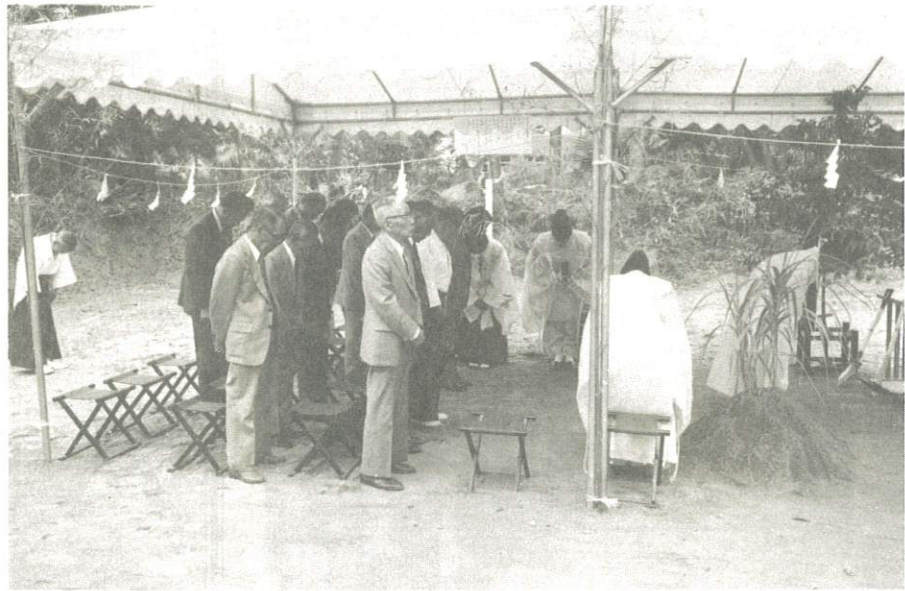
侯の書生として朝晩公私一切の事に接し、東大卒業後英国に留学し、国
際的に著名な柳本卯太郎氏の書いた本に、侯の鵜戸さん参りの事が次の様
に書いてある。

「や、奥に進めば左に神の林を負い右に海原を望んで険しき崖に架けられ
た神橋（神の橋）がある。不浄のある人が渡ろうとすると、この橋が化け
て蛇骨となり渡る事が出来ないと伝えられている。これが此の橋の神秘さ
でもある。小村先生は母堂の背中に負われて自然の刺激を受けられし秘より、
十五才の時、初めて故郷を辞せられますまで、この神橋の空気に浴せ
られたのである。私は先生の性格趣味を通観する時、先生の感じた所の
鵜戸の神秘的感化を想起せずにはおられないのである。」以上の如く柳本
氏は先生にこもる鵜戸の靈気を常に感じたと言っておられる。鵜戸の神橋
を我清浄なりとの信念を抱きながら少年寿太郎侯は幾度か渡られた事であ
ろう。

恰も本年は明治三十八年九月五日、日露講和条約の調印八十年を経て、
日南市とポーツマス市と姉妹都市縁組の記念すべき佳年でもあります。小
村寿太郎侯の当神宮によせられました崇敬の一端を記しまして御挨拶と致
します。

「天皇陛下御在位六十年 記念事業齋館を建設」

本年は天皇陛下御在位六十年の佳年にあたり、各地でそれぞれ奉祝の記念行事あるいは記念事業が盛大に実施されています。当宮でもこの度責任役員会において御在位六十年奉祝事業として社務所横に齋



地鎮祭

館を建設することが全員一致で決定した。これは昭和四十五年の旧社務所焼失後、例祭時の参籠は献幣使、同随員の参籠室がないため自宅奥齋にて当日の参向をお願いしておりましたが、それでは不都合だということで、社務所が狭隘であること、書物庫、装束室等を併設すること等、諸条件を含め建設することになった。建物は木造二階建銅板葺流造りで、一階は神饌所、書物庫、更衣室で、二階は献幣使室、随員室、応接室、装束室で構成され、総建坪は二五九・一二五平方米（七八・五坪）である。工事は山本設計コンサルタントの設計管理の下、建築主体工事は西田工務店、給排水衛生空調設備工事は日拓工業㈱、電気設備工事は九州電気工務㈱がそれぞれ請負うことになった。地鎮祭は去る六月十三日、建設委員をはじめ工事関係者多数参列の中、厳かに執行された。工事期間は約三ヶ月半で完成は九月末の予定である。



進行中の齋館工事

母の心を詠める歌

幼少の時

あなうれし黄金白銀何かせん
吾子にまさる宝とてなし

人生の壁

権 弥 宜 中 武 信 明

最近の新聞に「自殺」「心中」といった文字が載らない日はなく、多くの人等が自ら尊い命を絶っています。警察庁がまとめた昨年の自殺者総数は、二万三千五百九十九人でした。これらの人等には、私等の計り知る事の出来ない深い理由があったとは思いますが、ほんの少しの間でも自分を省りみて、後に残された者はどうなるのだろうかとか、まだやれる事はないのだろうかという事を考えるのは浅はかな考えでしょうか。私等は病気になる時に健康の有難さを知ります。

しかし、死んでからでは生きていない事の有り難さは分りません。こればかりはやりなおす事は出来ないのです。生きていけば必ず良い事があるはずで、苦し辛い日々が一生涯続く訳

はないと思うし、それは人生の中のほんの一時にしか過ぎないと思います。心に希望の光を持ち続け目的に向かって努力して行けば、必然と道は開けて来るはずで、思っていただけでは何の解決にもならないし、何の実も結ばないと思えます。

私はある切っ掛けで「みずよ高原の夢」というドキュメンタリーの本を読んで目頭の熱くなるのを感じました。日は浅いのですが私は毎週木曜日に書道に通っており、そこでこの本と出会ったのでした。塾の岡本京子先生が心身障害児のわが子の為に歩んで来られた苦難の道程について述べてありました。公的な力ばかりで、この子供の為、又、障害児の理想郷づくりの為に平凡な生活に別れをつけ、南那珂郡北郷町鎮瀬戸に根をおろし、岡本夫妻は二人

三脚で立ちあがったのですが、開園を前に夫は永い眠りについたのです。この間の、コロニーをつくる為の夫妻の苦勞、その後の先生の苦勞と、どちらも一言では言いつくせない程の苦勞を背負って、大海原の荒波を乗り越えて来られたのです。この事は多くの人々の心を引きつけました。そして、多くの人々の援助により「みずよ高原」は開園したのでした。前にも述べたように目的に向かって努力したならば、必ず実が結ぶんだなという事を感じました。しかし、これで一段落したわけではなく、公的機関の援助がないので、運営費をまかなって行くには苦勞が絶えないと思えますが、今まで通り力強くやって行かれる事と思えます。

人生において、苦勞とか悩み等は避ける事の出来ない壁であり、私等は、それを一つ一つ乗り越えて行かなければならない運命を背負っていると思えます。苦勞すればする程、悩めば悩

社殿の調度

社内権 弥 宜

田 中 克 宣

社報等の記事を書く時、私は常に考えや感動等を卒直に述べる事にして居りますので、文内容共に専門書等の様な学の有る事は書けませんし、本義とは少し違つた事を正しいとする事が有ると思えますので始めに了

解願います。表題の如き内容を今回書こうと思いましたが、当神宮にて御奉仕申し上げて居ります内に度々感じる時が有ったからです。神様の鎮座致されます社殿と申す建物は、伊勢の大神宮を始めとして大なり小なり調度等で装飾されて居ります。しかし此の調度、實際神様の方向より見た時必ずしも飾とは言い難いのです。例えば真神用具は上座より視れば鏡も玉も剣も見えず、神も葉表を下座に向けて居ります。更には祭儀の中心たる神饌を調理致す場合にしましても、大前に献上した時拝礼する側より見て美しいと感じる様に盛付けを行います。第一社殿そのものの神職が祭典奉仕を致す場所は、日々清掃しますが肝心の内陣神座に至る迄日々御奉仕申し上げる御宮は少ないと思えますし、神様に對して失礼であり神道ではタブー視されて居りますのか、大扉には御輪（板等の類）御錠等を以って軽々しき心にての開扉を阻止して



鳴吹八幡神社 里神楽奉納

社務日誌抄

一月一日 歳旦祭
一月三日 元始祭
一月二十二日～二十三日 九州別表神社宮

司会に宮司出向
一月二十七日 宗教法人法
華会安藤綺久江
氏外十五名参拝

二月一日 例祭

第十五回奉納四半の大会開催
風田、中央地区
歌合戦を終夜執行
二月九日 第三十四回剣法
発祥鶴戸山頭彰
剣道大会開催

二月十一日 紀元祭

二月十三日 広島東洋カー
プ松田オーナー
阿南監督他五名
必勝祈願祭

二月十四日 宮崎県警察本
部若刈勝治警務
部長参拝

二月十七日 祈年祭

二月二十二日 豊前市嘯吹
八幡神社宮司初
山吉凡氏外十五
名参拝、里神楽
を奉納

三月二日 宮崎神宮敬神婦
人会六十五名参
拝

三月十日 大本教本部出口
京太郎氏他四名

三月十三日 責任役員会
三月二十一日 鶴戸地区戦
没者慰霊祭
三月二十四日 責任役員会
三月二十六日 星倉老人ク
ラブ富沢ミヨ氏
他二十五名参拝



全国伝統的建造物群保存地区協議会会員に雅楽演奏

参拝

四月十六日

岩手県宮古市
横山八幡宮宮司
花坂幸男氏他四
十名参拝
四月十七日 責任役員会
四月二十日 明治神宮崇敬
会中島神社氏子
島田吉三氏外三

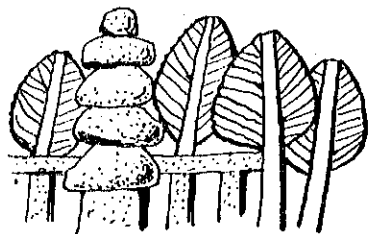


居ます。この様に社殿は人の目から見て美しく立派で厳肅に拝見する様に裝飾奉仕するのですが、これを①「たてまえ」②「人から見て立派で美しいと思えば、その人は立派な大神様だと

印象付け、それによって神徳が高まる。」と言う人が時時居られますが、私はそうは思いません。②の様に人が立派と感じて神徳が高まるという事も社殿裝飾が外部から視てのみ美しい理

由の一つかも知れませんが、それでは外見の形のみで宗教本来の心を無視する事に成り、お社が神様になってしまいます。私には奉仕する人本人の心境に本当の意味が込められて居ると思えます。つまり神前に神饌調度品を献上して、それに対し神が美味しい、美しいとお感じに成るのでは無く献上する者が美しい物、素晴らしい物、美味しい物を今最も丁寧に恐多い大神様に御供申し上げて居るのだと思う心をこそ神が食され、お召しに成って「ウマシモノ」「ウルワシキモノ」「心ツクシノ奉仕御苦労」だと感じられるのだと思います。だからこそ「人の心に神はおいでに成る」と言われるのではないのでしょうか。人の真心を受けられるのであり、まず「御供して神様がお召しに成ったのに神饌は一つも減って居らぬ。」「御衣祭にて織物を献上して神がお召しに成れるのか」と言うバカげたへりくつは生まれて来ません。ですから内陣に實際ホコリが有っ

ても、人が「神様は恐多い御方で容易に御扉を開けて対面する事は失礼である。」と考えて祭典外は不開の扉と致すならば、その勤めの心を神様はお受けになるのではないのでしょうか。神様は暗く不浄でカビ臭い内陣にお籠りなされるのでは無く、そこには神の気が鎮座されるのだと思います。神様は何所でも無く高天原なる心の世界におわして、万事を御覧に成って居られる方であるがゆえに現世と心の世界を結ぶ鏡を御神体と仰ぎ奉るのでしょう。神職が形だけの作法で無く心の籠った御奉仕を致し、神様が座します祭典を御奉仕出来れば、神意に叶う事は勿論の事、日本の神様方がそれぞれ役を持って共に守護されて居られる限り、八百万の神々様の守護と御徳を受ける事が出来ると言っても過言では無いと思えます。神様が心の世界なる高天原におわして私達が苦しい時、つらい時、一生懸命に心の底から神にすがることつまりは前述の「心の籠る



御奉仕」なのですが、それをすれば神様の御徳を受けられる事を示すものとして、自社に伝わる御神論を最後に挙げておきます。
御神論
合掌して我が御名を唱えよ、
唱うるにより我れ汝にいたらん。
汝のなやみをかえて我が御名とせよ。
汝の痛みをかえて我が御名とせよ。
我れいたる時汝らのなやみ消え、
汝らの痛みいやさるべし。
天之御中主大神

十九名参拜
四月二十六日 氏子崇敬者
総代会

四月二十七日 宮崎商業高
等学校野球部三
十名必勝祈願

四月二十八日 東京都渋谷
区山王清浄講社
松崎尚也氏外三
十六名参拜

四月二十九日 天長祭
五月五日 鶴戸地区子供が
いさみ太鼓を奉
納

五月八日、九日 九州地区
神職総会(佐賀
市)に宮司他職
員出向

五月十七日 責任役員会
五月十九日 神社本庁設立
四十周年記念式
典に宮司出席、
同席にて表彰を
受く(於 明治
神宮会館)

五月二十三日 全国伝統的
建造物群保存地
区協議会会員四
十二名 川越市
長の案内で参拜

五月二十七日、二十八日
鶴戸神宮敬神婦
員出向

人会研修旅行及
び総会(青島神
社、都農神社、
今山八幡宮)

五月二十八日、三十日 役
員研修旅行(広
島、島根方面)

五月三十一日 別当宮司先
賢慰霊祭
六月五日、七日、十日、十
二日 職員研修旅行(神奈川・山梨方
面)

六月十三日 天皇陛下御在
位六十年記念事
業斎館建設工事
地鎮祭

六月三十日 大坂式

研修旅行を終えて

巫子 谷口佳寿子

梅雨入りしたばかりの六
月、今年もまた研修旅行が
行なわれました。二班に別
れての旅行。あいにく一班
は雨にたたられ、まわりの
景色も見えなかつたとか。

反対に私達二班は三日間と
も快晴に恵まれ楽しく過ご
すことができました。

第一日目、朝一便で羽田
へ飛び空港からバスで神奈
川県の鶴岡八幡宮へと向
つた。

三ノ島屋をくぐると太鼓橋、
左右には源平池、静御前が
舞った下拝殿(舞殿)、歴
史を変えた大銀杏、そして
宝物殿。これらを見ている
と源氏の盛衰を今に伝える
ようでした。正式参拝を済
ませ、いろいろな説明を聞
きながら巫子さん同志の話
もはずみ楽しいひとときを
過ごすことができました。

次の目的地は高徳院(鎌
倉大仏)だった。高さ十一
メートル余、重さ約十二ト
ンで鎌倉時代の代表的な彫
刻の一つ。『鎌倉や御仏な
れど釈迦牟尼は美男におは
す夏木立かな』と与謝野晶
子もうたっているが、微笑
みかけるような表情はまだ
厳しさをも合わせ持ち独特
の趣きがあった。
江ノ島で昼食を済ませた
後、海岸沿いを歩いてみた。
海開きを待たずに気の早い

若者たちは砂浜に寝そべっ
て日光浴を楽しんでいた。
マリンスポーツのメッカと
言われるだけあって、東西
に延びる海岸線の景色は美
しかったが、海水の汚さ
に驚いた。

寒川神社では、正式参拝
の時、八方除の舞を舞って
いただき研修旅行の安全を
祈願していただきました。
年間二十万件を越す御祈禱
があるということや、病院
経営もされていることを聞
かされた時は驚きました。
寒川神社から小田原城へ
向いそして宿泊地となる熱
海温泉へ到着しました。宴
会も盛り上がり熱海の夜を
時間が過ぎるのも忘れるほ
ど楽しく過しました。

二日目、十国峠を通過して
箱根の関所跡へと向った。
徳川二代將軍秀忠によって
開設され参勤交代の時に入
鉄砲と出女を厳重に取り締
まったということだった。
資料館には十手やなぎなた、
通行手形、古地図、鎧など
約千点を陳列してあるとの
ことだったが時間の関係で
見学できなくて残念だった。

その後芦ノ湖で遊覧船に乗
って約四十分間、船上から
見える周りの景色を楽しん
だ。

箱根神社での正式参拝。
宝物殿には曾我兄弟が仇討
に使った短刀、豊臣秀吉の
書状、箱根権現縁起絵巻な
どがあり創建以来、特に武
將の信仰を集めたというの
がよく解った。
昼食を済ませ御殿場を通
って富士五合目へと向った。
途中、霧がかかったりして
富士山が見えないのではな
いかと心配したが五合目に
着いた頃には霧もすっかり
晴れていた。標高二三〇五
メートルの五合目から見
る富士山は山頂まできれいに
見え残雪もあり、澄みき
った空気を存分に満喫できた。
富士山を下って私たちは
河口湖ホテルに着いた。

夕食をとりながら外には
富士山が見えた。また六階
にあったガラス張りの展望
風呂からもきれいな富士山
が見え、私たちの旅の疲れ
をいやしてくれた。
三日目、今日はいよいよ
宮崎へ帰る日だ。



鶴岡八幡宮にて

羽田空港へ向う途中に、ま
ず風穴を見学。暗い洞窟が
続き入口にはまだ雪が残っ
ていた。洞内は寒くて私達
を震えあがらせた。
続いて白糸の滝。高い所
から落ちてくる水は名前の
とおり白い糸を幾つも垂ら

したように見え、とても美
しかった。そして滝の音は
私たちの心の奥まで深く響
きわたった。
三日間の日程を無事終え、
あとは空港に向うだけだ。
車中からは富士山が見え、
「これで見納めだね。」と、

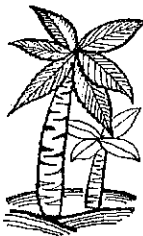
皆で言いあった。ガイドさ
んから聞いた、その地方の
神話、悲恋物語もまた心に
残ることでしょう。
宮崎空港へ着き、手には
土産物をかかえ、ほっとし
た表情でそれぞれの家へと
向かった。
長いようで短かった研
修旅行。みんなそれぞれ、
楽しい思い出を作ることが
できました。

新職員紹介

出仕 河野博文



私が当神宮に奉職して早
三ヶ月が経とうとしている。
今までの学生生活とは全く
違った生活が始まったのだ。
神宮に奉職する前までは、
神社の事は自分では凡そ分
かっていると思っていたが、
いざ奉仕してみると仕事の
内容が全く分からなく大変
苦勞をした。



出仕 伊東健治



私個人において鶴戸神宮
は生まれ育った故郷に御鎮
座する由緒ある神社であり、
小さい頃から親しみを持っ
てよくお参りしておりました。
その神社に四月から奉
職させていただき、喜びと
共に神宮職員としての責任
の重さを月日が立つにつれ
感じてきました。
国学院大学在学中は、東
郷神社で実習させていただ
き、神職としてどうあるべ

きを先輩方に見てきまし
たが、私自身が神職として
奉仕する身になると、学生
の頃との違いを感じ、神職
として社会人としての仕事
付き合いなどの難しさを
つくづく考えさせられ、そ
して反省する事が多々あり
ます。
当神宮は宮司様が雅楽の
先生なのを始めとして先輩
方も雅楽・奏楽にと極めて
熱心なので、学生の時、龍
笛を少し嗜ったことのある
私にとっては、こういった
環境に感謝し、又この機会
を幸いとして雅楽・奏楽を
本格的に勉強していきたい
と思います。
当神宮は恒例の祭や特殊
神事を始めとして境内の至
る所に千古の霊境の地とし
ての歴史を残しており、又
それが現在も見受けられる
事は、諸先輩方が培かわれ
てきた御威徳であり、神社
の為に尽くされた努力の賜
物なのであるうと思ひます。
元より浅学非才な私であり
ますが御神徳の昂揚、御社
頭の隆昌にと日々精進努力
する所存であります。

巫子 後藤悦公



私が、鵜戸神宮に奉仕するようになって、三ヶ月が過ぎました。振り返ってみると、この三ヶ月間を、まるで昨日の事のように早く感じたのに、本当に色々な事がありました。最初の頃は、期待よりも、不安の方が大きくて、戸惑ってばかりでした。

中でも、一番苦労したのは、笛と太鼓で、太鼓はリズムが全然合わず、私は相対りリズム感が悪いんじゃないかと、真剣に悩みました。笛の方は、言うまでもなく、その倍くらい悩みましたが、神主さんや巫子さんの御指導のおかげで、何とか音も出るようになりました。でも、まだまだ充分には吹けないので、少しでも上手になるように練習したいと思います。

夢中で過ごしてきた三ヶ月間で過ごしてきたけれど、少しず

つ色々な事が分かるようになってきました。目の前の事しか見えなかったのが、

回りを見る余裕も出てきました。いままでずっと、社会人として大切なのは、責任感だと思っていたけれど、それと同じくらい、もしかしらそれ以上に、思いやりの心を持つことも、大事なのではないかと思えます。これから先、分からない事や、時には失敗することもあるだろうと思うけど、一人前の巫子になれるよう、又自分自身が少しでも成長できるように、勉強していきたいと思えます。

巫子 谷脇ルミ



私が神宮に奉仕し始めて三ヶ月が過ぎました。始めはこんな私に勤まるかどうかわかりませんでした。が、今ではだいたい仕事にも慣れてきました。

でも一人前の巫子になるにはまだまだです。

やはり先輩方の言う通りに笛・太鼓には大変苦労しました。三ヶ月たちました。が、まだまだ練習が必要で

先輩方も良い方ばかりなので毎日楽しく仕事にはげむことができます。

まだまだわからないことが沢山あるので先輩方を見習って早く一人前の巫子になれるようできるだけ努力していきたいと思っています。

巫子 佐藤富士子



早いもので、鵜戸神宮に奉仕するようになり、三ヶ月が過ぎてしまいました。

入ったばかりの頃は、笛太鼓、作法等、色々覚え

る事が沢山ありました。礼の仕方でも、ただ頭を下げるだけではなく、背筋をちゃんと伸ばし、何をする時は何十度頭を下げるという具合に、角度まで覚えなければなりません。日頃首を下げる程度のあいさつしかしていなかった私には簡単にできそうで、すごく難しいことでした。

そして一番苦労したのは、笛と太鼓でした。特に笛はいつまでたっても音が出らず、投げ出したいた気持ちでいっぱいでした。でも今では、神主さんや先輩の巫子さんの御指導のおかげで、少しずつ音も出るようになってきました。

まだまだ長時間正座をする、足はしびれるし、わからないことも沢山あります。これからも自分では、精いっぱいやっていくつもりですが、他の方には迷惑をかけることもあると思います。

早いもので、鵜戸神宮に奉仕するようになり、三ヶ月が過ぎてしまいました。

編集後記

梅雨の真只中に行なわれた衆参同日選挙は自民党の圧勝に終わりました。政局は一応安定するものと思われませんが、今度は秋の自民党総裁選に焦点は移って行き、ニューリーダー等の対応が注目を集めると共に、各派閥間の動向も気になるところです。しかし、大勢は徒来と余り変わることはないでしょう。

一方、経済状況は緊縮財政の中でありますが、政府の思惑通りには展開していかないようであります。本来ならば円高と原油安、それに金利の低下により、国民にはかなりのメリットをもたらさなければならぬはずであります。内需拡大に結びつけ物価安定になるには、あと半年程度の余裕を見なければならぬといわれています。

政治による早急な抜本的解決を期待し、低迷している景気の回復を一時も早く望みたいと思えます。

(谷口)